産後ケア事業は開催回数が少ない

来年度民間委託の事業回数増を検討

議員　妊産婦健康診査等アクセス支援助成金を利用したタクシー、宿泊など利用件数と助成額は。

保健福祉部長　タクシーの利用は2人、延べ4回。自宅から県立大船渡病院への妊婦健診にかかる通院に利用。出産時期に医機機関の近隣にある宿泊施設に宿泊された方はいない。一人当たりのアクセス支援助成額の平均は、ハイリスク妊産婦で約2万6千円、それ以外の妊産婦は約1万9千円。

議員　産後ケア事業について、民間委託が毎月1回、県立釜石病院は平日毎日だが1日1組しか利用できない。改善策は考えているか。

保健福祉部長　県立釜石病院については、助産師の十分な配置を県及び県医療局に対して要望していく必要がある。民間委託については、来年度の開催回数を増やす検討をしている。

議員　こどもの遊び場について、屋内の遊び場を確保できないか。

保健福祉部長　市内5ヶ所の「子育て支援センター」のほか、市内8ヶ所の「生活応援センター」併設の公民館も、利用については柔軟に対応している。公民館では親子対象のサロン事業や高齢者など地域住民と交流する事業も行っており、子育て家庭の方への情報提供、支援に努めていく。

議員　「ホッとカード」の使い勝手が良くない。改善策はどうか。

保健福祉部長　現在、子ども課の窓口で申請すると、その場で交付している。子育て世代の方の意向に沿って、より円滑に好まれる方法でホッとカードを受け取り、必要な時に必要なサービスが受けられるように、早急に見直しを進めていく。

村田信之

村田議員の動画はこちら

質問項目

- 子育て施策について
- 釜石市国際外語大学校について

釜石市国際外語大学校のランチ需要

議員　学校周辺（鈴子町）のランチ需要予想、対策について。

市長　学生定員160名に加え、教職員9名の169名程度を昼間人口及びランチ需要の増加対象として想定している。学校によると、ランチは持参する弁当のほか、外食する学生もある。また、近隣業者の協力による廉価な学生限定メニューの提供や、学校への昼食移動販売など、学校の規模と特性を踏まえた事例があるとのことだ。

民間委託の産後ケア事業「まんまるぎゅっと」

妊産婦健康診査等アクセス支援助成金…妊産婦が市外の医療機関に通院する経済的負担を軽減するため、交通費や出産待機宿泊費を助成する。上限一人5万円、ハイリスク妊産婦は10万円。

産後ケア事業…出産後の悩みや、子育てに不安を抱えるお母さんたちが安心して子育てができるよう、日帰りで心身のケアや育児サポート等の支援を行う事業。

ホッとカード…釜石市独自の子育て支援施策。未就学児が一時預かり保育などのサービス利用時に使用できるカード。利用料の全部または一部が免除される。限度額3万円。